

JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number:

57021320 A

(43) Date of publication of application: 04.02.1982

(51) Int. CI

A61K 31/13

A61K 31/165

(21) Application number:

55093853

(71) Applicant:

CHUGAI PHARMACEUT CO LTD

(22) Date of filing:

11.07.1980

(72) Inventor:

HONDA NARIMITSU

NAGAI HIDEAKI HINOHARA YOSHIKAZU

KOIZUMI MASUO

MURAKAMI YASUSHI

NAKANO HIDEKI

(54) BLOOD SUGAR LEVEL DEPRESSING AGENT

COPYRIGHT: (C)1982, JPO& Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To provide a blood sugar level depressing agent containing a specific benzamide derivative as an active component.

CONSTITUTION: An agent containing the compound of formula [R1 and R2 are H, alkyl, (substituted) aralkyl, or (substituted) phenyl] as an active component. The compound of formula has excellent insulin biosynthesis promoting activity and blood sugar level depressing activity. It is effective at a dose of 0.lW100mg/kg for man, and maintains the activity for ≥24hr by the administration of 0.1W100mg/kg, once a day. The compound of formula can be prepared easily e.g. by reducing the corresponding m-nitrobenzoic acid amide by conventional method.

⑩ 日本国特許庁 (JP)

10特許出願公開

⑩公開特許公報(A)

昭57—21320

⑤ Int. Cl.³ A 61 K 31/13 識別記号 ADP ADP 庁内整理番号 6408-4 C 6408-4 C 砂公開 昭和57年(1982)2月4日 発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

砂血糖降下剤

号中外製藥株式会社綜合研究所

願 昭55-93853

31/165

②特②出

願 昭55(1980)7月11日

仍発 明 者 本多成光

東京都豊島区高田3丁目41番8 号中外製薬株式会社綜合研究所

内

⑫発 明 者 永井秀明

東京都豊島区高田3丁目41番8 号中外製薬株式会社綜合研究所

内

砂発 明 者 日野原好和

東京都豊島区高田3丁目41番8

内

⑫発 明 者 小泉益男

東京都豊島区髙田3丁目41番8 号中外製薬株式会社綜合研究所

内

仰発 明 者 村上泰

東京都豊島区高田3丁目41番8号中外製薬株式会社綜合研究所

内

切出 願 人 中外製薬株式会社

東京都北区浮間5丁目5番1号

個代 理 人 安藤憲章

最終頁に続く

明細 實

1. 発明の名称

血糖降下剂

2. 特許請求の範囲

一般式

(式中、R1及びR2は同一又は異って、水素原子, 直鎖・分岐鎖・環状アルキル基,核に置換基を有 し得るアラルキル基又は置換基を有し得るフェニ ル基を示す。)で表わされる化合物を有効成分と する血糖降下剤。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、次の一般式

$$\bigcap_{NH_2}^{NH_2} - \operatorname{con} \left(\bigcap_{R_1}^{R_1} \right)$$

(式中、R1及びR2は同一又は異って、水梁原子・ 直鎖・分岐鎖・環状アルキル基、核に置換基を有 し得るアラルキル基又は置換蒸を有し得るフェニル基を示す。) で袋わされる化合物を有効成分とする血糖降下剤の発明である。

上式(I)で表わされる化合物の中には、公知の化合物が含まれるが、それらの記載されている先行文献には血額降下作用ないしそれを示唆する楽理作用は全く記載されていない。

上式 (1) で扱わされる本発明の化合物は、例えは、以下の参考例に示すように、対応するメタニトロ安息香酸アミド類を常法により還元することにより容易に得ることができる。

イソブロビルアミン69,トリエチルアミン15 ml 及びアセトン200ml の協合存放に、氷冷複拌下、メタニトロペンゾイルクロライド1869を徐々に加える。同温度で30分、次いで宝温で1時間境拌後反応溶液を18の水に注ぎ、析出する結晶を呼取し、水洗後再結晶して無色針状晶のメタニトロ・N・イソブロビルペンズアミド(融点131~132℃)1879を得た。この5.2

砂考例.

9、10%パラジウム・炭素 0.5 P 及びエタノール100 af の温液に水素を通じ、常法により接触 登元する。計算量の水素を吸収後触媒を除去し、 反応液を拔圧機縮し、残盛をエタノールより再結 品して無色針状晶のメタアミノ・N・インブロビ ルペンズアミド(化合物 1)4.1 9 を得た。融点 148~149℃

元果分析値 分子式 Ote H14 N2 O として

O H N

理輪傾均 67.38 7.92 15.72

突側值(%) 67.35 7.94 15.69

上配と同様にして殺1の化合物を得た。

なお、化合物 2 5 , 2 7 及び 2 9 は 抽状で 得られたので 要中にハイマススペクトルの 値を、 欄外に N M R の値を 配敷した。



1 3

化合物	間換茶及び置換位置			融点	収率	元素分析值					
. AL	R ₁	R ₂	分子式	(C)	(%)	理 C	輪 値 日	(M) N	寒 0	側値	(%) N
2	н	н	C7H4N2O	77~78	8 1	6175	5.9 2	2 0.5 8	6 1.7 1	5.96	2 0,5 5
3		ОНз	C4H10N2O	121~122	8 5	6398	6.71	18.65	63.92	6.68	1869
4	,	C 2H6	O ₉ H ₁₂ N ₂ O	70~71	7 6	6 5.8 3	7.3 7	17.06	6 5.7 2	7.2 8	1 7.1 9
5	,	%-0₃ Ĥ7	O10 H14N2 O	57~58	7 8	6 7.3 8	7.92	1 5.7 2	6 7.2 5	7.8 8	15.64
6	•	m-C4 H9	C11H16N2O	112~113	7 5	68.72	8.39	1 4.5 7	68.70	8.3 7	1 4 5 0
7	• ,	sec -04 Hg	,	109~111	7.4		•		68.67	8.4 4	1465
8	•	t-C4H+	,	126~127	7 9				68.69	8.36	1 4.5 1
9	,	;-0,H,	,	87~89	7 6				68.75	8.4 6	1 4.6 2
1,0	•	←	C13H18N2O	147~148	8 4	7 L 5 2	8.3 1	1283	71.58	8.35	1 2 7 6
11	•.	-	C13 H12 N2O	1 3 2 ~ 1 3 3	8 6	7356	5.7 0	1 3.2 0	7 3.5 0	5. 6 7	1326
1 2	,	CH ₉	C14H14 N2O	88~89	8 4	7431	6.24	1238	7 4.24	6.20	1345

Nea	世典基及び関係位置			RE A	収塞	元素分析(
	R ₁	R ₂	分 子 式、	(3)	(X)	理 C	验 値 H	(%) . N	9	別値	(%) N
1 3	. н	OCH ₃	O ₁₆ H ₁₆ N ₂ O ₃	83~84	7 6	6 6. 1 6	5.9 2	1 0.2 9	65.98	5.88	1 0.3 5
1 4	,	SDE.	O14 H13 N3 O2	180~182	5 6	6 5.8 7	5.13	1 6.4 6	6 5. 7 5	5.1 8	1 6.5 5
1 5	•	CONH	,	135~136	5 9		•		6 5. 7 9	5.10	1 6.5 2
1 6	•.	-CONH2	,	223~226	6 8		,		6 5.8 1	5.07	1 6.5 3
1 7	•	Nit's	C13 H13 N3 O	151~153	7 9	6 8.70	5.77	1 8.4.9	68.64	5.7 9	1843
18	,	-CNH ₂	,	130~131	7 1		,		6 8.7 7	5.7 0	1853
1 9	,	₩ Z	,	150~151	7 4		,		6 8.7 5	5.67	1 8.4 2
2 0		∠OBH .	O 14 H 12 N 2 O 3	231~233	5 9	6 5. 6 2	4.7 2	10.93	6 5. 7 1	4.6 6	1 1.0 2
2 1	,	- CH ₂	O14 H14 N2O	96~97	7 3	7 4. 3 1	6.24	1238	74.25	6.19	1249
2 2	,	-сн,-С>-сн,	O ₁₅ H ₁₆ N ₂ O	94~95	8 0	7 4. 9 7	6.71	1166	74.92	6.75	1 L6 1
2 3	,	-CH2	O ₁₅ H ₁₆ N ₂ O ₂	109~110	7 9	7 0. 2 9	6,29	1 0.9 3	7 0. 3 4	6.3 2	10.89
24.	,	-cHz-CJ-ca	O 14 H13 O\$ N2O	131~132	6 7	6 4.4 9	5.03	1 0.7 5	64.42	5. 0 0	1 0.7 9

/L	微視差及び微視位置					元 紫 分 析 镇				
	R ₁	R ₃	分子式	点 般 (27)	(%)	理論値(24)	来的值的 OHN			
2 5	н.	-CH2CH2-	C ₁₅ H ₁₆ N ₂ O	oil	6 2	ハイマススペクトル 2 4 0.1 2 5 9	(#1) 2 4 0.1 2 4 6			
2 6	он 3	СН3	G9H12N2O	87~88	8 2	6 5.8 3 7.3 7 1 7.0 6	65.78 7.41 17.12			
2 7	s-03H7	a-C3H7	C13-H20N2O	oil	7 6	ハイマススペクトル 2 2 0.1 5 7 1	(*2) 2 2 0.1 5 8 0			
2 8	6-03H7	4-C3H7	•	179~180	8 0	70.87 9.15 12.72	70.79 9.15 12.78			
2 9	a-CaHe	n-04H9	C15H24N2O	oil	7.4	ハイマススペクトル 2 4 8.1 8 8 3	(*3) 2 4 8 1 8 7 5			
3 0	6-04H9	i-04 H9	,	85~86	7 9	7254 9.74 11.28	7248 9.79 1134			

*1: NMR (ODCs₃) 8:7.55~6.40 (10H. aromatic-H.-CONH-), 3.75 (2H. a. -NH₂), 3.45 (2H. t. J=6Hz. -CH₂-). 2.75 (2H. t. J=6Hz. -CH₂-)

* 2: NMR (ODORs) 8: 7.35~6.50(4H.aromatic-H).3.90(2H.a.-NH2).3.30(4H. t.J=6Hz.(-OH2OH2OH3)×2).1.60(4H.acxtet.J=6Hz.(
-OH2OH2OH3)×2).0.85(6H.t.J=6Hz.(-OH2OH2OH3)×2)

とのようにして得られる本発明の化合物は、優れたインスリン生合成促進作用及び血糖降下作用を有し、ヒトに対しては 0.1~1 0 0 町/ 切で有効で、1日1回 0.1~1 0 0 町/ 切の投与で 2 4 時間以上その効力を持続する。

投与に際しては、通常の製剤化に用いられる慣用手段により所望の剤形に成形された製剤が用い ちれる。

実施例 1.

1 群 5 心の 5 適合 D D Y 来マウス(雄・体重 2 5 ~ 3 0 9)を 1 6 時間絶食後、本発明化合物(2 0 0 呵 / 何)の水磨液又はけん濁液を経口投与し、 2 0 分後にストレブトゾトシン 2 0 0 呵 / 何を静脈内に投与した。 2 4 時間後に心臓から採血し、クルコースオキシダーゼ法により血中糖量を、また、二抗体法により血しようインスリン量を削定した。測定結果を表 2 に例示する。

なお、我中の化合物番号は参考例の化合物番号 に対応している。

血糖值(mg/d2) mean ± S. E. M.	血しようインスリン (#U/af) mean ± S. B. M.
157± 6	199±40
3 8 6 ± 2 1	4 3 ± 2 5
2 2 4 ± 1 9 ***	176±37"
157±16***	153±46
260±33*	2 1 3 ± 4 8*
2 4 8 ± 4 7 *	1 9 2 ± 5 4
263±36*	2 0 1 ± 3 8*
2 6 5 ± 3 2 *	253±56*
166±35***	1 9 0 ± 5 1*
150± 6***	2 2 4 ± 3 0**
1 9 3 ± 4 1 ***	173±63
2 1 0 ± 3 9 **	184±48*
2 6 7 ± 5 3	2 2 0 ± 3 7**
	mean ± S. E. M. 157 ± 6 386 ± 21 224 ± 19*** 157 ± 16*** 260 ± 33* 248 ± 47* 263 ± 36* 265 ± 32* 166 ± 35*** 150 ± 6*** 193 ± 41*** 210 ± 39***

*:P<0.05 **:P<0.01 ***:P<0.001 }

実 烱 例 2

メタアミノベンズアミド(化合物2)100部リン酸水素カルシウム58.5 部結晶セルロース50 部コーンスターチ40 部ステアリン酸カルシウム1.5 部

これらをよく協合し、常法により1錠250啊 に打錠(有効成分100啊含有)し、血糖降下用 錠剤として用いる。

実施例 3.

メタアミノ - N - ペンジルペンズアミド (化合物 2 1)の 4 0 % 水溶液を調製し、1 アンブルに 2 ml ずつ封入し、減 選して血糖降下用庄射剤として用いる。

出顧人 中外製果株式会社

代理人 安藤 憲章

第1頁の続き

⑩発 明 者 中野英樹

東京都豊島区高田3丁目41番8 号中外製薬株式会社綜合研究所 内